



人気観光地「青い池」は砂防ダム つながる防災インフラ・観光・教育

地なのだが、その本名は美瑛川プロック堰堤である。十勝岳の火山泥流を受け止めるための砂防ダム（砂防堰堤）に美瑛川の水がたまつたのが「青い池」なのだ。いつになぜ、こんな景色が出現したのか。その要因を探ってみよう。

まず、「青い池」に限らず透明な水が青く見えるのは、波長の短い赤い光を吸収し、波長の長い青い光を散乱する水分子の性質によって、青い光が私たちの目に届いているためだ。一方、「青い池」では、上流の白金温泉地区

美しい田園風景が人気の美瑛町で「青い池」だ。幻想的な風景は絵画である。十勝岳噴火による泥流なのだ。さらに、美瑛町と上富良野町の歴史を有している。防災インフラとして、砂防ダムで”映え”写真撮影やかなスカイブルーの水と立ち枯れした白い木。「青い池」を訪ねてみると、”映える”写真のためにボーズに凝る外国人観光客でぎわつていた。傍には「青い池 Local production shop」もあり、鮮やかな青色の「青い池ソフト」が人気だ。

「美瑛川地区かわまちづくり」では、美瑛川の河川空間を活用したサイクリングコースを『美瑛川・青い池サイクリングコース』と命名され、サイクリングコーススマップも作成されている。

砂防ダムで”映え“写真

美しい田園風景が人気の美瑛町で、近年、多くの観光客を集めるスポットが「青い池」だ。幻想的な風景は絵画のようだが、実は防災のためのインフラである。十勝岳噴火による泥流から暮らしを守る砂防ダム（砂防堰堤）なのだ。さらに、美瑛町と上富良野町では、火山と共生する防災学習に長い歴史を有している。防災インフラと観光と教育がつながる姿を探った。

地なのだが、その本名は美瑛川ブロック堰堤である。十勝岳の火山泥流を受け止めるための砂防ダム（砂防堰堤）に美瑛川の水がたまつたのが「青い池」なのだ。いったいなぜ、こんな景色が出現したのか。その要因を探つてみよう。

まず、「青い池」に限らず透明な水が青く見えるのは、波長の短い赤い光を吸収し、波長の長い青い光を散乱する水分子の性質によつて、青い光が私たちの目に届いていためだ。一方、
「青い池」では、上流の白金温泉地区

の噴火で、不安定な土砂が膨大に生産された。それが雨や雪融け水と一緒に泥流や土石流と化す恐れがある。そこで下流の美瑛町を守るために砂防堰堤が造られた。

美しい田園風景が人気の美瑛町で、近年、多くの観光客を集めるスポットが「青い池」だ。幻想的な風景は絵画のようだが、実は防災のためのインフラである。十勝岳噴火による泥流から暮らしを守る砂防ダム（砂防堰堤）なのだ。さらに、美瑛町と上富良野町では、火山と共に生する防災学習に長い歴史を有している。防災インフラと観光と教育がつながる姿を探った。

砂防ダムで”映え“写真

鮮やかなスカイブルーの水と立ち枯れした白い木。「青い池」を訪ねてみると、”映える”写真のためにボーザン（ローカルプロダクション）もあり、鮮やかな青色の「青い池ソフト」が人気だ。

「美瑛川地区かわまちづくり」では、美瑛川の河川空間を活用したサイクリングコースを『美瑛川・青い池サイクリングコース』という名称とし、サイクリングコースマップも作成されている。

このように「青い池」は、まさに観光で湧出する水にアルミニウムなどの鉱物が含まれていることで水中にコロイド粒子ができ、コロイド粒子と太陽光線が衝突して光がさまざまな方向に散乱する。その結果、「青い池」の水上の写真のような色に見える。写真上部に噴煙を上げる十勝岳が写っているが、十勝岳と温泉と「青い池」には深い関係があるのだ。

では、水をためている砂防堰堤は、どんな経緯でできたのだろうか。時は昭和63年（1988）にさかのぼる。12月16日、十勝岳で水蒸気爆発が始まり、翌平成元年（1989）年3月まで、計23回の噴火を繰り返した。こ

1

ほっかいどう学 前進中! ※以下、肩書きは開催当時のものです。

※以下、肩書きは開催当時のものです。

①開催報告

第8回ほっかいどう学連続セミナー

「留萌の魅力とそれを支えるもの」
5月27日(土)「道の駅るもい」を会場に、第8回ほっかいどう学連続セミナーが開催されました。今回の登壇者は小学校教諭、高校教諭、北海道開発局、民間(トラベルプランナー)という異色の組み合わせ。それぞれの視点で留萌の魅力とそれに基づく実践をご紹介いただき、留萌の新たな可能性を発見する時間となりました。パネルディスカッションでは参加者同士で「協働」の在り方を議論。アットホームな雰囲気の中、リアル開催ならではの交流ができました。

②開催案内

令和5年度通常総会・第5回はっかいどう学シンポジウム
7月28日(金)札幌国際ビルディング(JR札幌駅から徒歩3分)

皆さまのご支援により、当法人の活動も第5期目を迎えます。定款に基づき、通常総会を7月28日(金)に対面形式で開催します。総会終了後は「教育と土木でつくる北海道の未来(仮題)」をテーマにシンポジウムを開催します。キャリア教育や高校における「ほっかいどう学」の展開について意見交換したいと思います。

第7回インフラツアーアin石狩平野 7月15日(土)江別河川防災ステーション他

「広大な原野を豊穣の大地に!~石狩平野開拓のあゆみ」をテーマに、ほっかいどう学インフラツアーやセミナーを開催します。江別河川防災ステーション、北村遊水地、月形樺戸博物館、石狩川頭首工などで学びます! 詳細は後日、マーリングリスト、HP等でご案内差し上げます。皆様のご参加をお待ちしております! ※以上のセミナー等の詳細は、ほっかいどう学HP(QRコード)からご覧ください。➡

③みち学習プロジェクト 推進中

北海道開発局と全道各地の学校が協働で取り組んでいる「みち学習プロジェクト」。91名の先生方に参画いただけています。今年度は「全道みち学習リーダー会議」から本格始動。全道各地のリーダーをオンラインでつなぎ、授業づくりや副読本・ビデオクリップなどについて意見交換を行いました。今年度も新たなトライアルが續々と生まれそうな予感です!



これから（成熟の先をめざす）
道産子のWell-being実現へ
地元でこそ多様な幸せを実現したい
地方の幸せが全国のパワーの原素！
そのためにくわ地方農生に学校加

学校DX
教育
認定NPO法人はっかいどう学推進フォーラム
社会



会員募集中 一緒に「ほっかいどう学」を創りましょう!

っかいどう学を応援してくださる皆さま、ぜひ、当法人へのご入会をご検討ください。会員の皆さまに、この「ほっかいどう学新聞」を郵送でお届けするとともに、各種情報（セミナーやインフラツアーや案内等）をメールにて最速でお知らせします。ご入会の案内は右のQRコードよりご覧いただけます。



ほっかいどう学新聞 第11号 2023年6月20日発行

発行人／新保 元康、編集人／北室 かず子、編集スタッフ／原文宏 宮川 愛由 森 希美、デザイン／スタジオコロール
発行所／認定NPO法人 ほっかいどう学推進フォーラム ☎001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17
TEL(011)738-3363 FAX(011)738-1889 URL <https://hokkaidogaku.org> E-mail info@hokkaidogaku.org

